

平成19年9月中間期 会社説明資料

平成19年12月



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

(JASDAQ・5939)

会社のプロフィール

商号	株式会社大谷工業 OTANI KOGYO CO.,LTD.
本社	〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目22番17号
代表者	代表取締役社長 芝崎安宏
設立	昭和22年6月30日
資本金	6億5,520万円
売上高	2,374百万円(19年9月中間期)
従業員	176名(19年9月30日現在)

会社の沿革

昭和21年2月	当社の前身、大谷重工業株式会社富山支社小杉製作所として創業
昭和22年6月	株式会社大谷工業小杉製作所として設立
昭和29年5月	社名を大谷工業株式会社と改称し、小杉研砥工業株式会社を吸収合併
昭和45年10月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号T0Cビル内に移転
昭和60年7月	鹿沼工場 頭付きスタッドのJIS規格認可
昭和63年3月	鹿沼工場 六角ボルト・六角ナットのJIS規格認可
昭和63年10月	富山工場 溶融亜鉛めっき加工技術JIS規格認可
昭和63年11月	日本証券業協会へ店頭登録
平成元年7月	本社を東京都品川区北品川5丁目4番14号T0C北品川ビルに移転
平成元年9月	櫻井鐵工株式会社を合併し、社名を大谷櫻井鐵工株式会社と改称
平成8年9月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号T0Cビル内に移転
平成8年10月	社名を株式会社大谷工業と改称
平成11年6月	鹿沼工場 ISO9001認証取得
平成11年9月	富山工場 ISO9001認証取得
平成16年4月	環境関連製品販売を開始
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場

事業内容

- ・配電・通信線用架線金物、CATV・防災無線用金物、鋸螺の製造・販売
- ・送電用・無線用鉄塔、屋外鉄構、架台、フェンスの設計・製造・販売
- ・スタッドの製造・販売・施工
- ・溶融亜鉛めっき加工



平成19年9月中間期 決算概要



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

平成19年9月中間期の総括

当中間会計期間のわが国経済は長い低迷期を脱し安定傾向にあります。震災による原子力発電所の停止、「建築基準法改正」による大型建築物の着工延期等があり当社の業績に影響を及ぼしております。また資源全般の高騰は変わらず、この中間期も鉄鋼材料の値上げ・亜鉛(メッキ用)・燃料費増となり収益を圧迫しつつあります。このような状況下、当社の全体売上高は2,374百万円と前年同期比84百万円(3.4%)の減少となりました。品目別では電力各社の設備投資の抑制継続のなか、通信向けの営業を強化し主力の架線金物は1,359百万円と同69百万円(5.4%)の増加となりました。鉄塔・鉄構につきましては、前中間期に無線鉄塔の受注が好調であったことの反動もあり、428百万円と同68百万円(13.7%)の減少となりました。一方、大型ビル等の建築に使用される「スタッド」の売上高は537百万円と前年同期比26百万円(4.6%)の減少となりました。これは関東地区を中心に前年度中に竣工が一段落したこと、および前述の法改正の影響が要因であります。下期においては復調するものと思われれます。その他部門は49百万円の売上高となりました。

収益面では、主要原料である鉄鋼資材の値上げ及び亜鉛高がありました。原価低減に努め売上総利益率は前年並みの20.9%となりました。営業利益は売上減少による影響をカバーすべく販売費及び一般管理費の節減に努めました結果、前年同期比11百万円減少の88百万円となりました。経常利益はスクラップ等の売却収入が増加したことから111百万円、中間純利益は75百万円といずれも前年同期比で増加しております。

損益計算書(非連結)

(単位:百万円)	19年9月中間期	18年9月中間期	前期比	備考
売上高	2,374	2,458	-3.4%	前中間期無線鉄塔好調 建築基準法改正による影響
売上原価	1,876	1,946	-3.5%	鉄鋼材料値上げ、亜鉛・燃料費 高騰も売上総利益前年並み
一般管理費	409	412	-0.7%	
営業利益	88	99	-11.5%	
営業外収益	41	26	54.9%	スクラップ等の売却収入の増加
営業外費用	18	17	5.0%	
経常利益	111	108	2.1%	
特別利益	0.1	0.4	-	
特別損失	3.4	1.6	-	
中間(当期)純利益	75	47	60.1%	

貸借対照表(非連結)

(単位：百万円)	19年9月中間期	18年9月中間期	増減	備考
流動資産	2,772	2,810	-38	
固定資産	1,504	1,445	59	
資産合計	4,277	4,256	21	
流動負債	2,188	2,243	-55	
固定負債	1,102	1,197	-95	長期借入金返済等
負債合計	3,290	3,440	-150	
資本金	655	655	0	
資本剰余金	221	308	-87	資本準備金を利益剰余金に振替
利益剰余金	80	△192	272	
純資産合計	986	815	171	

キャッシュ・フロー計算書(非連結)

(単位：百万円)	19年9月中間期	18年9月中間期	比較増減	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	115	150	△ 35	中間純利益107百万円 減価償却・諸引当10百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 34	△ 87	53	有形固定資産の取得による 支出37百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 30	△ 30	0	長期借入金返済額30百万円
現金及び現金同等物の 増加額	51	33	18	
現金及び現金同等物の 期首残高	348	396	△ 48	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	399	429	△ 30	

品目別売上高

(単位：百万円)

セグメント	19年9月中間期		18年9月中間期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
架線金物	1,359	57.2%	1,289	52.4%	69	5.4%
鉄塔・鉄構	428	18.0%	496	20.1%	△68	-13.7%
スタッド	537	22.6%	563	22.9%	△26	-4.6%
その他	49	2.0%	109	4.4%	△59	-54.7%
合計	2,374	100.0%	2,458	100.0%	△84	-3.4%

架線金物	電力各社の設備投資の抑制が継続するも通信向けの営業を強化
鉄塔・鉄構	前中間期に無線鉄塔好調の反動
スタッド	前年度中に関東地方を中心とした竣工が一段落したこと、建築基準法改正による大型建築物の着工延期等が影響
その他	

平成19年9月中間期 業績予想



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

平成20年3月期 業績予想(非連結)

(単位：百万円)	20年3月期予想	19年3月期実績	増減
売上高	5,100	5,184	-1.6%
経常利益	215	242	-11.7%
当期純利益	110	158	-30.5%
EPS (円)	12円05銭	18円00銭	-
ROE (%)	-	18.5	-

経営方針

・会社の経営の基本方針

当社は昭和21年の創業以来、豊富な知識・高度な技術で鉄に生命の息吹を与え「豊かな社会を築きあげる」ことを理念しております。本邦において基幹インフラ(電力・通信業等)の一翼を担っているとの矜持を忘れず、固有の技術と最新テクノロジーの融和をはかり「安心・安全・高品質」な製品をお届けする「社会に継続していく意義のある企業」として貢献し続けたいと念願しております。

・目標とする経営指標

当社は、每期、安定的な利益を継続的に確保するとともに、株主利益の重視と経営の効率化の視点から、ROA(総資本利益率)並びにROE(株主資本利益率)の向上に努力してまいります。

・中長期的な会社の経営戦略

既存の架線金物・鉄塔に次ぐ製品を開発し、架線金物業界において専門性・独自性を発揮するリーディングカンパニーを目指します。

今期の取り組み

主要取引先である電力業界は総需要が伸び悩むなか、今般の原子力発電所停止に伴う多額のコスト増が見込まれ、総費用の抑制方針が打ち出されております。当社の主力製品である配電用資材(鉄塔・架線金物)も例外ではなく減少傾向にあります。また単価面でも鉄・亜鉛(メッキ材)等の値上げを吸収した上での原価低減を強く電力会社から求められております。

通信業界は携帯電話等の高品質・高積度化、光ケーブルの延長、CATV・有線のインフラ拡充等今後も需要が見込まれます、アンテナ鉄塔、架線金物類は当社の得意分野でもあり積極的な営業活動を展開いたします。

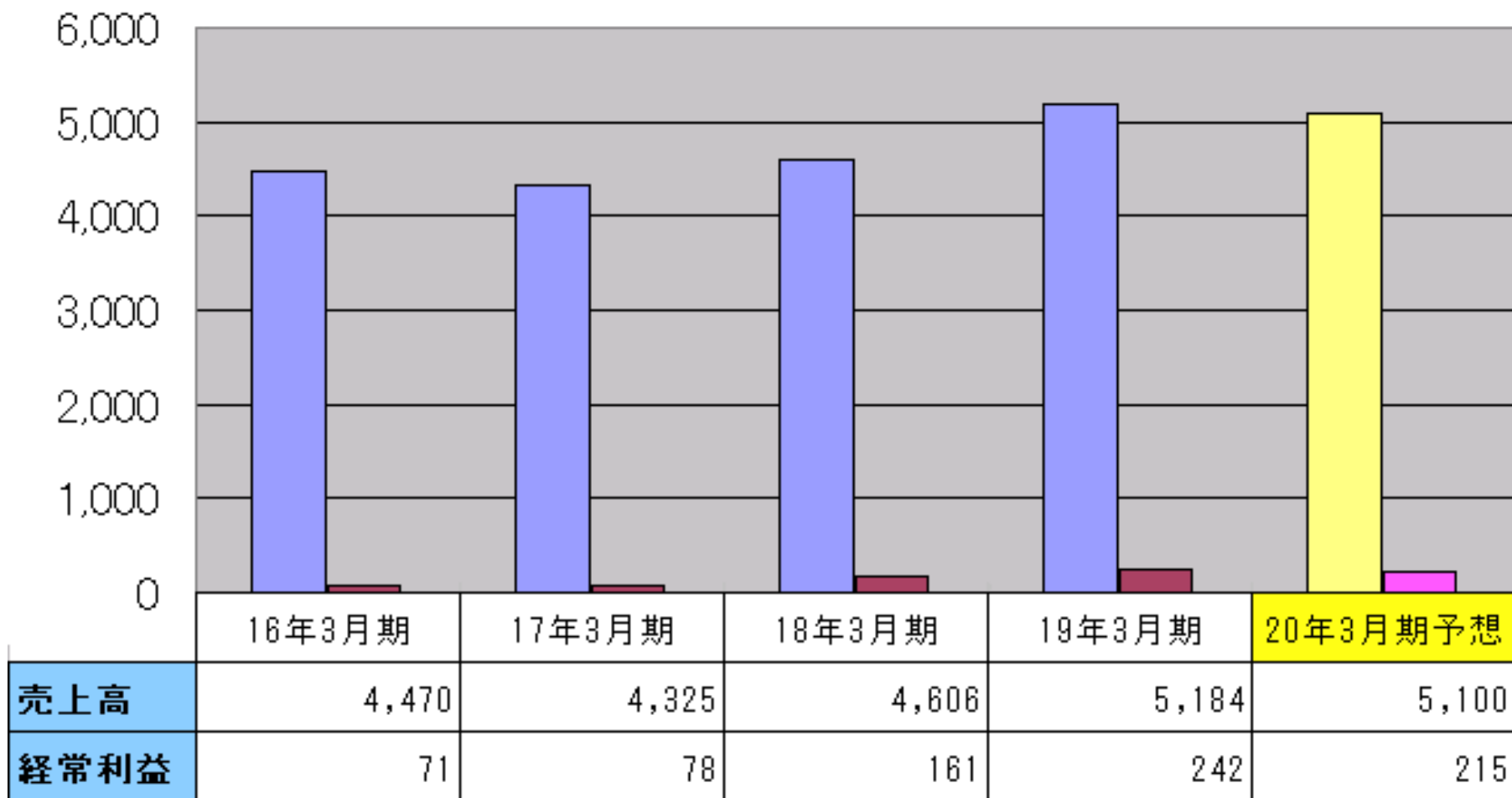
スタッド関連の建設業界は採算重視の営業方針のもと、納入価格・施工期限・品質等について厳しい要請があります。今夏に鉄鋼材料の大幅な値上げがあり採算は一段と厳しくなることが予想されます。また同事業は建築現場での責任施行を前提に受注しておりますが、施工従事者の高齢化・人員不足が顕在化するなかで優秀な施工業者を組織化することも急務であります。

以上の既存分野で安定した収益を確保するため取引先・商品別毎の採算管理を徹底すること、工場においては一層の生産性向上を図る必要があります。また新製品・新分野の開拓・拡大も重要であります。従来から手掛けている「光通信工事材料」の受託生産は安定し業績の柱となりつつあります。今般大型機械(ボルトホーマー)を導入し、より加工度が高く・効率的な生産ができる体制を整備いたしました。この投資を生かせる新分野への進出も課題であります。

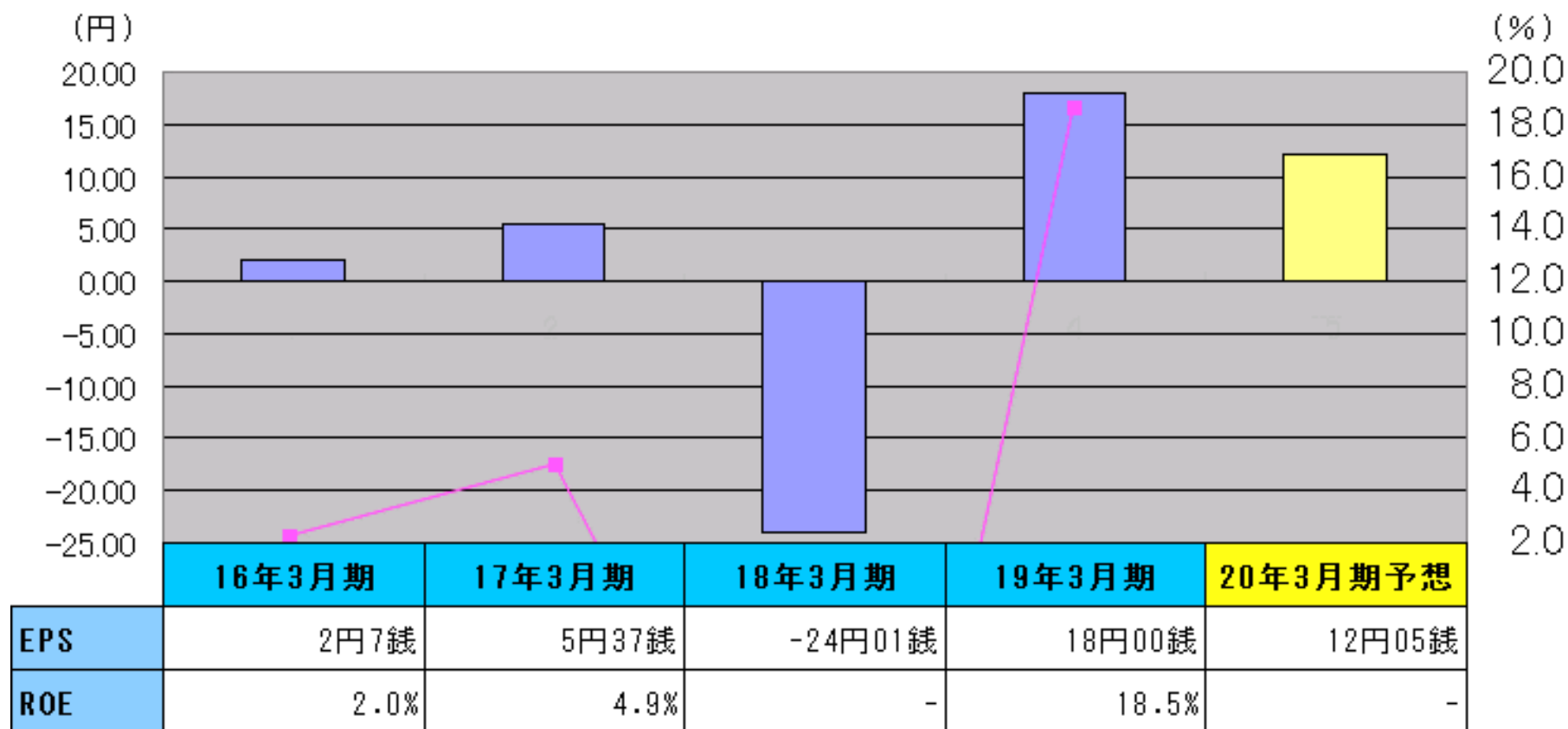
遊休地である千葉工場跡地は、高速道路のインターチェンジに隣接し周辺環境が格段に整備されつつあります、その動向によっては売却以外にも活用策を検討してまいります。富山工場は市街地の中心部に位置しており、周囲の宅地化が進むなど環境への影響も考慮すると将来的には移転せざるを得ない状況にあります。

売上高・経常利益の推移(非連結)

(単位：百万円)



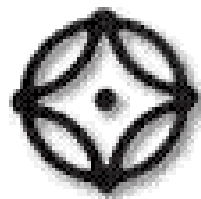
EPS・ROEの推移(非連結)



EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

本資料に関するお問い合わせ



株式会社 大谷工業

総務チーム

TEL : (03) 3494-3731

E-mail: somu@otanikogyo.com